

街並み特性と色彩イメージ —色の違和感— Investigation of the Image of Colors in Streetscape

高橋 美果
佐藤 昌子

Mika Takahashi
Masako Sato

大阪市立大学
//

Osaka City University
//

キーワード: 色彩, イメージ, 街並み

Keywords: color, image, streetscape

1. はじめに

近年, 景観色彩は, 公共性という観点から, それらを見る人の印象や快適感(快・不快)に配慮した計画の立案・実行が求められている。

本研究は, 景観色彩の評価につながるであろう潜在的, 内的基準としての色分布を探索する。ここでは, 「住宅街・住宅地区」, 「商店街・商業地区」および「行政・オフィス地区」の3つの基本的な地区の街並みに対し, 人が潜在的にもっている内的(心的)なイメージと色の関係を調査し, プラスまたはマイナスイメージに結び付く傾向にある景観色範囲を提示することを目的とする。

前報¹⁾では, 無彩色から高彩度色にわたる計159の単色サンプルを, 被験者各自の「街らしさ」という内的(心的)基準に基づき評価してもらった結果から, 各地区の「街らしい」または「街らしくない」色相範囲および色調範囲を報告した。

本報では, 前報¹⁾と同じ単色サンプルを用い, 同じ被験者に, 各地区の街並みの中にサンプルのような色を基調とする建物が見えることに「違和感」があるかどうか評価してもらった。各地区の中で大きな色面として見えることが「違和感」に結び付く色範囲を報告するとともに, 前報¹⁾から得られた「街らしくない」という空間の雰囲気的なマイナスイメージと, 見えることの「違和感」との関係について考察する。

2. 実験の概要

2-1. 色サンプル

前報¹⁾と同じ計159の色紙を色刺激とした。被験者に評価し

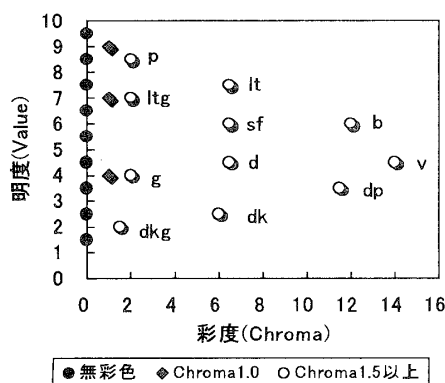


図1 等色相面における色サンプルの分布(色相4Rの場合)

てもらう色サンプルは, 色紙(3cm×3cm)を台紙(N6.5, 14cm×20cm)の中央に1枚ずつ貼り付けて作成した。図1に, 等色相面(色相4R)における色サンプルの分布を示す。色相により, PCCSの11トーン(v, b, dp, lt, sf, d, dk, p, ltg, g, dk)の明度値, 彩度値が異なるが, 相対的なサンプルの位地関係は同様である。

2-2. 評価方法

被験者に, 実験の主旨を説明し, 想定してもらう3つの地区の街並みについて「住宅街・住宅地区」は, 住宅が中心となっている街並み, 住居の周辺の通りの街並み, 商店街・商業地区は, 買物や飲食などを楽しむために訪れる通りで, 店舗が建ち並ぶ通りの街並み, 行政・オフィス地区は, 都道府県・市町村の庁舎・役場や企業のオフィスビルなど, 業務・ビジネスのための建物を中心となっている通りの街並み」とインストラクションした後, 「あなたは, このような色を基調とする建物＝その外観全体または壁面・屋根などの大きな面積をサンプルのような色が占めて見える建物」がそれぞれの街並みの中に見えることについてどのように思いますか」という質問に対し, 「特に問題ないので見えてよい」, 「少し違和感があるが見えてもかまわない」, 「強い違和感があるので見えない方がよい」の3段階で, 1サンプルずつ, 3つの地区について同時に評価してもらった。色サンプルの評価順序は, 被験者間でランダムとした。

なお, 被験者(大学生48名, うち男子10名, 女子38名)および実験室の空間条件は, 前報¹⁾と同じである。

3. 結果

3-1. 色相・色調と「違和感」の関係

表1～3は, 想定された地区ごとに, 全ての色サンプルについて「強い違和感があるので見えない方がよい」の回答人数を示したものである。ここで, 数値は人数を表し, 数字の色と背景色の組み合わせは, 次のとおり回答率の区分を表している。

表記方法	「見えない方がよい」の回答率
人数(下線付き)	75%以上
人数	50%以上～75%未満
人数	25%以上～50%未満
人数	25%未満

「住宅街・住宅地区」(表1a~c)：彩度の影響が大きく、中彩度色(1t, sf, d, dkトーン)から高彩度色(v, b, dpトーン)にかけて「見えない方がよい」という回答率が高くなる傾向がある。特に、紫系の色相では、中～高彩度の色調範囲全体が「見えない方がよい」色とされる傾向にある。

「商店街・商業地区」(表2a~c)：彩度の影響は顕著でなく、全体的に「見えない方がよい」という回答率が低い。ただし、その中でも高彩度色(v, b, dpトーン)および無彩色から中彩度色にかけての明度の低い暗い色調(N1.5~N2.5, dk, g, dkgトーンなど)で「見えない方がよい」とする割合がやや高くなっている。

「行政・オフィス地区」(表3a~c)：「住宅街・住宅地区」と同様に、彩度の影響が大きい。ただし、「住宅街・住宅地区」では暖色系(赤～黄)の色相で、「行政・オフィス地区」では寒色系(青)の色相で、それぞれ「見えない方がよい」の回答率が相対的に低くなる傾向がある。

また、3つの地区に共通する傾向として、無彩色と低彩度色の中でも、明度の低い暗い色調では「見えない方がよい」と感じる割合が高くなる傾向がある。これは、地区によらない建物全般に対する色彩イメージなのかもしれない。

「色の公害」、「騒色」の主要因として、彩度の高い大きな色面が周囲から突出して見えることがあげられる。本実験の結果は、あくまでイメージ上の「違和感」から見えてもよいかどうかを評価したものであるが、「住宅街・住宅地区」と「行政・オフィス地区」において彩度の影響が顕著であった。また、この2つの地区は、その街並みの色彩イメージが被験者間でかなり共通しており、街並みを構成する建物の外観色の範疇が、各自の中に、低彩度域を中心とする類似した色分布を形成していると推察される。

3-2. 雰囲気的なマイナスイメージ「街らしくない」と見えることの「違和感」の関係について

前報¹⁾の実験およびアンケート結果から、色彩イメージとしての「街らしさ」は、「住宅街・住宅地区」と「行政・オフィス地区」では建物のベースカラー(壁や屋根など)として見慣れた、またはふさわしい色として、「商店街・商業地区」ではサインやディスプレイなどのアクセントカラーおよび賑わいや空間の明るい雰囲気を連想する色として、それぞれ評価される傾向が認められた。このため、「住宅街・住宅地区」と「行政・オフィス地区」については、「街らしくない」という雰囲気的なマイナスイメージの強い色と、建物の外観色として見えることに強い「違和感」がある色とは似通った色分布を示し、全体として「街らしい色＝見えてよい色」、「街らしくない色＝見えない方がよい色」という関係が見られた。これに対し、「商店街・商業地区」については、「街らしい」とされたビビッド、ブライトトーンの高彩度色において、「見えて良い」とする意見と「見えない方がよい」とする意見が分かれるなど、雰囲気的な街のマイナスイメージと大きな面積で見えることの「違和感」は独立に評価されたことが推察される。また、これ

らのことから、実際の街並み評価においても、「街らしい色＝見えてよい色」という関係が建物のベースカラーや街並み全体の基調色について成立する場合は、見えることの「違和感」における個人差が小さく、反対に、この関係がアクセントカラーについて成立する場合には、色が付属して見える景観要素の種類およびサイズ(面積)などにより、不快と感じる人と感じない人との意見が分かれることが推察される。

表1「住宅街・住宅地区」の「見えない方がよい」回答人数

(a) Chroma1.5以上の有彩色																(c) 無彩色	
トーン	4R	10R	8YR	5Y	3GY	3G	5BG	5B	3PB	9PB	7P	16RF	計	Value	N	計	74
v	39	41	39	42	41	35	37	32	38	43	45	44	476	9.5	4		
b	34	40	36	43	45	39	33	31	29	39	43	42	454	8.5	3		
dp	27		11				29	31	26	32	43	47	340	7.5	3		
1t	27		11			30	31				30	31	284	6.5	3		
sf										11	34	35	242	5.5	4		
d	6	7	8								33	37	209	4.5	6		
dk		8	7								33	30	229	3.5	7		
p	6	5	1	0	4			6	4	5	5	4	66	2.5			
1tg	5	2	0	0	4	8	11	9	6	5	9	7	66	1.5	24		
g	4	1	2	3	6	10	10						113				
dkg	10		5					24	24				201				
計	191	158	133	185	219	244	236	213	209	305	324	263	2680				

(b) Chroma1.0の有彩色							
Value	4R	4YR	5Y	3G	3PB	7P	計
9.0	1	2	0	3	3	4	13
7.0	1	1	2	4	5	3	16
4.0	5	6	8	9	9	10	47
計	7	9	10	16	17	17	76

表2「商店街・商業地区」の「見えない方がよい」回答人数

(a) Chroma1.5以上の有彩色																(c) 無彩色	
トーン	4R	10R	8YR	5Y	3GY	3G	5BG	5B	3PB	9PB	7P	16RF	計	Value	N	計	91
v	10			11				7	10				170	9.5	1		
b			9					6	8			11	163	8.5	3		
dp	6	9	6	9	10	11		9	10				143	7.5	5		
1t	8	7	4	6	6	10	11	5	6	11	9	11	94	6.5	9		
sf	3	4	6	4	5	8	6	4	6			7	80	5.5	10		
d	2	6	4	6	11	8	10	10	6			9	108	4.5	11		
dk									7	27	24		186	3.5			
p	4	2	2	1	0	1	3	1	1	4	1	2	22	2.5			
1tg	3	6	3	4	5	7	7	3	6	8	8	5	65	1.5			
g	8	7	6	8	7	11							146				
dkg				7									203				
計	85	93	71	96	119	120	127	88	99	181	181	120	1380				

(b) Chroma1.0の有彩色							
Value	4R	4YR	5Y	3G	3PB	7P	計
9.0	1	0	3	2	1	1	8
7.0	4	4	4	7	7	6	32
4.0	9	11	11	11	11	11	71
計	14	15	19	20	21	22	111

表3「行政・オフィス地区」の「見えない方がよい」回答人数

(a) Chroma1.5以上の有彩色																(c) 無彩色	
トーン	4R	10R	8YR	5Y	3GY	3G	5BG	5B	3PB	9PB	7P	16RF	計	Value	N	計	26
v	44	42	41	46	44	38	35	32	37	39	44	44	486	9.5	3		
b	41	42	41	45	42	41	33	31	30	38	43	44	471	8.5	0		
dp	41	29		30	26	38	30	25	26	39	46	42	391	7.5	0		
1t	36	28	24	36	35	36	24			27	29	38	346	6.5	0		
sf	25	26	27	27	27	27				11	31	33	310	5.5	0		
d	20	21				25	24				27	36	271	4.5	0		
dk	20	16									29	29	258	3.5	0		
p	12	8	3	1	6			3	3	3	4	6	79	2.5	8		
1tg	9	5	0	2	7	8	11	3	0	2	6	7	60	1.5			
g	7	9	3	4	7	9	6	7	8	8		10	90				
dkg	10			10	10	9							149				
計	265	240	203	242	250	271	226	184	167	257	300	306	2911				

(b) Chroma1.0の有彩色							
Value	4R	4YR	5Y	3G	3PB	7P	計
9.0	2	3	3	5	3	2	18
7.0	1	0	0	0	1	2	4
4.0	3	3	2	0	2	3	13
計	6	6	5	5	6	7	35

- 1) 高橋、佐藤：街並み特性と色彩イメージ—単色サンプルから受ける「街」らしさ—、平成12年度日本色彩学会関西支部大会講演論文集、pp8-9, 2001.2